

特集 IPM (総合的病害虫・雑草管理) に基づいた病害虫防除

1 IPMに活用できる病害虫防除技術の開発

IPM (Integrated Pest Management の略で総合的病害虫・雑草管理) とは、化学農薬の使用も含む利用可能な全ての防除手段を検討し、適切に組み合わせることにより、農作物の被害を防ぐとともに、人の健康に対するリスクと環境への負荷軽減を最小限にしていこうという取り組み、考え方である。

IPMの推進には三つの行程がある。

その一つは予防的措置で、栽培計画の作成段階でのほ場の選択、輪作、抵抗性品種の導入、病害虫の伝染源となる植物残さの除去など病害虫の発生しにくい環境を整えること。二つめは日々の栽培管理の中で病害虫・雑草の発生状況の観察や病害虫防除所が発表する病害虫発生予察情報の活用などから、防除の要否や防除のタイミングなどを判断すること。三つめは生物的、物理的、耕種的、化学的防除技術

など多様な防除手段の中から、経済的被害が生じるレベル以下に抑制できる適切な防除手段を選択して、防除することである。

現在、当センター環境・病害虫部では病害の発生や病原菌の増殖を抑制する拮抗微生物や土着天敵等を活用した生物的防除、光や熱水等を活用した物理的防除、重炭酸ソーダなど特定防除資材を活用した防除技術など多方面からの研究開発を実施している。

今回、当部で研究開発している防除技術の中から、天敵や光、特定防除資材を活用した防除技術を紹介する。

高木 廣 (環境・病害虫部)

(問い合わせ先 電話: 0790 - 47 - 1222)

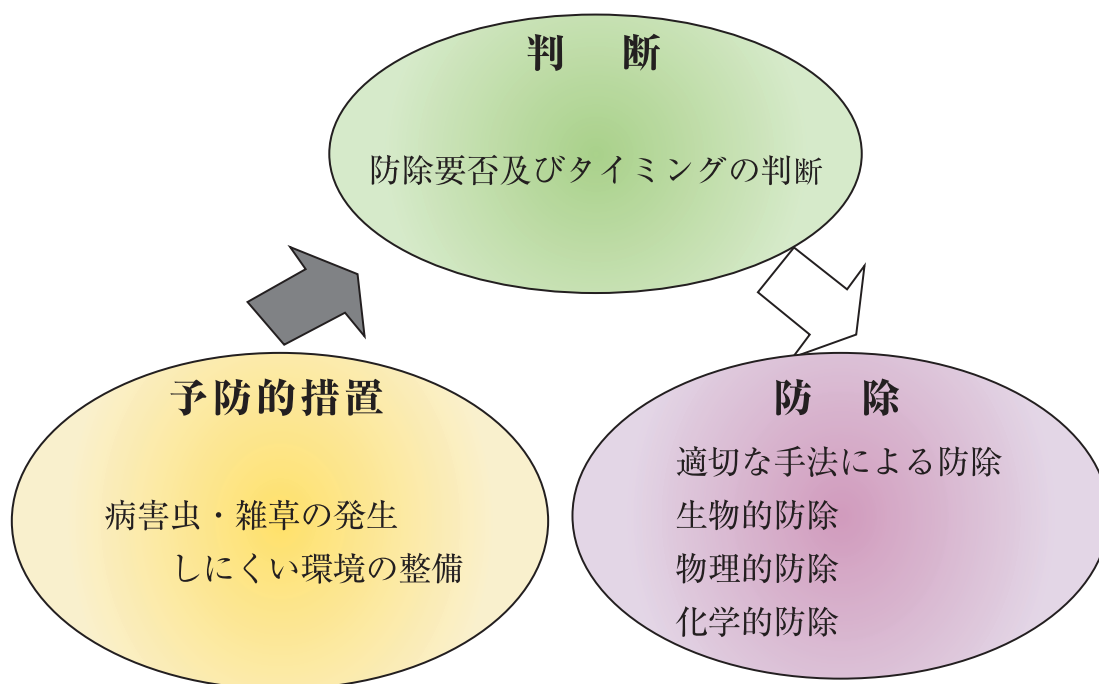


図 IPM (総合的病害虫・雑草管理) の体系